

平成 26 年 5 月 14 日

特修プログラム「ふくしま未来学」本格始動！

概要

本事業は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業(COC)」に昨年 9 月に採択されスタートしました。ふくしま未来学は、原子力災害からの地域再生を目指し、地域課題を実践的に学び、未来を創造できる人材の輩出を目的にしています。

今年度コア科目を開講し、1 年生より履修を開始しました。コア科目では、学類を越えて全学に開かれた特修プログラムとして開講し、被災地復興に寄与する実践的教育を展開します。

地域実践学習「むらの大学」では、実際に学生が地域に入り住民と交流し、地域復興の担い手育成と地域再生の双方を加速させます。今年度は、南相馬市と川内村をフィールドにむらの大学の授業を展開していきます。

○コア科目 ー選択必修 4 単位以上

共通領域科目	NP0 論、原子力災害と地域、災害復興支援学Ⅰ・Ⅱ、ボランティア論、水・土地の汚染と私たちの健康・生活、地域論Ⅰ・Ⅱ、むらの大学
専門領域科目	現代社会へのアプローチ

○むらの大学日程（予定）

- ・むらの大学授業：毎週金曜日 5 限(16:20-17:50) ※休講あり
南相馬市、川内村に関する活動内容

5 月 23 日（金）	南相馬市と川内村の関係者による講義
5 月 30 日（金）	放射線量に関する基礎知識理解
5 月 31 日（土）	南相馬市スタディーツアー
6 月 14 日（土）	川内村スタディーツアー
8 月 25 日（月）～ 9 月 6 日（土）	南相馬市・川内村フィールドワーク
10 月	現地で報告会

参考資料：ふくしま未来学 H25 年度事業報告書
ふくしま未来学パンフレット

（お問い合わせ先）
ふくしま未来学 COC 推進室事務局
Tel 024-504-2850
Fax 024-504-2649

ふくしま未来学 実施について



- 1 -

ふくしま未来学 プログラムポリシー

「ふくしま」における原子力災害からの経験と、地域課題の実践的な学習を通じて、右図の能力を身につけた者に、「ふくしま未来学」の修了証を交付。



- 2 -

- 本事業は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業(COC)」に昨年9月に採択されスタートした。
- 今年度コア科目を開講し、1年生より履修を開始。コア科目では学類を越えて全学に開かれた特修プログラムとして開講し、被災地復興に寄与する実践的教育を展開する。

共通領域 科目	NPO論、原子力災害と地域、 災害復興支援学Ⅰ・Ⅱ、ボランティア論、 水・土地の汚染と私たちの健康・生活、 地域論Ⅰ・Ⅱ、むらの大学
専門領域 科目	現代社会へのアプローチ

－ 3 －

地域実践学習「むらの大学」について

- 実際に学生が地域に入り住民と交流し、
地域復興の担い手育成と地域再生の
双方を加速させる
- 今年度は南相馬市と川内村をフィールドに、むらの大学の授業を展開する

－ 4 －

南相馬市では

- 企業体験 震災後の企業の取り組みを知る
受け入れに前向きな企業 36社
- 復興商店街 まちのにぎわいを作る商店街
経営を再開させた店の取り組みを知る
- 有機農業 小高区で有機農業を復活させる
取り組みを知る
- 野馬追いの手伝いなど
- 市の雇用促進住宅に宿泊



- 5 -

川内村では

- 米づくり 商工会の協力により、田んぼを借りる
米づくりの大変さを学ぶ
田んぼの周辺住民とのつながりづくり
- 地域づくりのお手伝い 高齢化が進む地域の現状を知り、
地域住民と一緒に考え行動する
- 商工会と協働で川内村の魅力をPR
- 古民家に宿泊



- 6 -

授業概要とねらい

- ・ 東日本大震災と原子力災害が引き起こした地域の問題について、理解する(放射線の線量管理についても学ぶ)
- ・ 地域実践学習(長期にわたって地域に滞在し、地域住民と共に地域づくりに取り組む)→南相馬市・川内村
- ・ 事前・事後の学習をふまえながら、地域を見る眼を養い、地域課題を発見し、解決に結びつける活動にも取り組む
- ・ 最終的には、地域で成果発表会をおこなう



- 7 -

授業計画

4月～5月 講義 グループワークなど

5月下旬～6月上旬 現地視察フィールドワーク
(日帰り)

8月下旬～9月上旬 現地実地学習
(1-2週間ほど)

10月 事後学習 成果報告会



- 8 -